

# 環境・安全レポート 2017

(レスポンシブル・ケア活動報告)



株式会社 **ADEKA**

三重工場

# 目次

1. はじめに	1 頁
2. 三重工場の概要	2 頁
3. 環境保全活動	3 頁
(1) 環境方針	3 頁
(2) 環境目標	3 頁
(3) 各種モニタリング	3 頁
4. 環境マネジメントシステムの状況	4 頁
(1) 環境管理推進組織	4 頁
(2) 資格取得一覧	4 頁
(3) 環境会計	4 頁
(4) グリーン購入	5 頁
5. 環境管理活動	5 頁
(1) 環境パフォーマンス	5 頁
(2) 環境負荷のインプットの低減	5・6 頁
(3) 環境負荷のアウトプットの低減	6・7・8 頁
6. 安全衛生活動	8 頁
(1) 労働安全衛生方針	
(2) 労働安全衛生目標	9 頁
(3) 安全衛生活動の取り組み	9・10 頁
(4) 保安活動	10 頁
7. 社会貢献活動	11 頁
(1) 地域とのコミュニケーション	11・12 頁
(2) 清掃活動	12 頁
アンケート	13 頁

# 1. はじめに

株式会社 ADEKA は、1917 年に電解法による苛性ソーダの製造を目的として設立し（当時の商号は「旭電化工業株式会社」、2017 年に創立 100 周年を迎えました。ADEKA グループは「新しい潮流の変化に鋭敏であり続けるアグレッシブな先進企業を目指す」、「世界とともに生きる」を経営理念として、「法令の遵守と社会倫理に則った公正・透明な企業活動」、「安全で高品質な商品・サービスの提供」、「環境の保全」、「社会からの信頼確保のための友好的かつ積極的なコミュニケーション・社会貢献活動」、「適正かつ公正な情報開示」、「働きやすい職場環境」、「反社会的勢力の排除」、「健全で持続的な発展と社会への還元」の 8 つを行動憲章としています。この CSR と経済発展とを両立させるという命題に対して、ADEKA グループ一丸となって取り組んでおります。

三重工場は 1965 年の創業以来、プラスチック用樹脂添加剤や情報化学品材料などを製造してきましたが、従来から「環境保全是工場の発展・存続のための最重要インフラ」と位置づけ、同業他社に先駆け環境保全の管理を向上させてきました。これを徹底させるための国際基準である「ISO14001：環境マネジメントシステム」に基づいた改善活動を行っています。また、労働安全衛生も環境保全同様に重要との認識の下に、「OHSAS18001：労働安全衛生マネジメントシステム」に基づいた改善活動を行っています。

三重工場は、種々の環境・安全活動を継続的に行い、2015 年に創業 50 周年を迎えることができました。これも、需要家、株主、地域住民の方々、所轄官庁のご理解とご支援の賜物と感謝申し上げます。今後とも、安全・安心であり且つ信頼を得られる工場であり続けられるよう、工場一体となって更なる改善・改革に取り組んでいく所存です。

本報告書は、2016 年度の三重工場の環境・安全に対する取り組みとその成果をまとめたものです。環境面では ① 公害・苦情の発生ゼロ、② 省エネルギーの推進、③ 廃棄物削減、④ グリーン調達の推進、⑤ ゼロエミッションの推進を目標として掲げ、取り組んでまいりました。安全面では、労働災害と通勤途上災害を 0 件とすること（ゼロ災の達成）を目標として掲げ、安全活動を展開してまいりました。また、発生が危惧される南海トラフ巨大地震に備えた BCP【事業継続計画】についても、ブラッシュアップを進め、災害に強い工場作りに取り組んでいます。

2017 年度は 2016 年度の結果とその反省を踏まえ、更に継続的な改善・改革に取り組んでいます。

三重工場は、地域に根ざした企業として、行政や地域社会とのパートナーシップを更に深め、あらゆる機会を通じ地域の発展と環境保全に尽力し、「環境調和型企业」の実現に向けて努力をしていきます。

三重工場の環境保全・安全対策の諸活動を皆様にご理解いただくと共に、ご意見・ご指導を頂ければ幸いです。

2017 年 9 月

株式会社  ADEKA

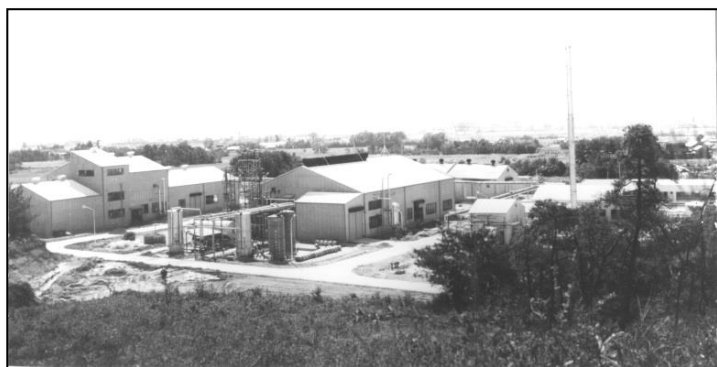
三重工場長 **高橋 伸**

## 2. 三重工場の概要

所在地	: 三重県員弁郡東員町山田 3707-1
工場開設	: 1965 年（昭和 40 年）10 月
敷地面積	: 143,227 m <sup>2</sup> （43,402 坪） （2016 年度版までの 100,404 m <sup>2</sup> : 30,372 坪訂正）
常駐協力会社	: ADEKA 総合設備(株)、ADEKA 物流(株)、(株)ケイエス、三重加工サービス(株)
生産品目	: PVC 用安定剤、PVC・ゴム用可塑剤、ポリオレフィン用抗酸化剤、光安定剤 などの樹脂添加剤、樹脂添加剤、感熱紙用添加剤、油剤・その他分野の添加剤、 液晶パネル用画像材料などの情報化学関係の材料情報化学品、界面化学品他

### 工場沿革

年	沿革
1965	アデカ・アーガス化学(株)三重工場として操業開始
1970	塩ビ用無毒安定剤製造棟（N プラント）完成
1980	ポリオレフィン用添加剤製造棟（MP プラント）完成
1986	抗酸化剤製造棟（SP プラント）完成
1990	旭電化工業(株)と合併、ポリオレフィン添加剤大型製造棟（FM プラント）完成
1991	ポリエステル系可塑剤大型製造棟（PN プラント）完成
1993	ISO 9002（品質管理マネジメントシステム）の認証取得、 情報化学品製造棟（CL-I プラント）完成
1995	TPM 第 1 類受賞、FM プラント増能（FM-II プラント）完成
1996	ISO 14001（環境管理マネジメントシステム）の認証取得
1999	光記録材料製造棟（LMS プラント）完成
2000	OH & S 8800（労働安全衛生システム）適合（2001 年に OHSAS 18001 へ切替え）
2006	株式会社 ADEKA へ社名変更
2007	FPD 向け情報化学品製造棟（CL-II プラント）完成、CL-II 検査棟完成
2009	添加剤ワンパック顆粒品製造棟（G-3 プラント）完成
2015	工場創業 50 周年
2016	抗酸化剤大型製造棟（SP-III プラント）建設中



1965 年 工場開設時の全景

### 3. 環境保全活動

#### (1) 環境方針

三重工場では下記の環境方針を策定し、方針に従って活動しています。

**三 重 工 場 環 境 方 針**

<理念>  
株式会社ADEKA三重工場は、自然豊かな地域に立地している化学工場であることを認識し、地球環境保全への取り組みを工場運営の最重要課題のひとつと位置づけ、生物多様性と地球温暖化に配慮し、環境と調和した活動を推進し、地球環境にやさしい工場にします。

<方針>

- 法規制の遵守と継続的改善  
地球環境に関する法令・協定および当工場が同意した要求事項ならびに社内基準を遵守すると共に、技術的・経済的に可能な範囲で地球環境保全の継続的改善を行います。
- 地球環境負荷の低減  
工場活動が地球環境に及ぼす影響を捉え、持続可能な目的・目標を設定し、廃棄物・エネルギー等の地球環境負荷の低減を行います。
- 地球環境保全意識の高揚  
環境教育・啓蒙活動を通じて、従業員一人一人が地球環境保全意識を向上させ、自主管理の徹底に取り組みます。
- 生物多様性への取り組み  
「生物多様性」の取り組みを推進し、保全を図ります。
- 対外連携の促進  
地域社会の一員としての自覚を持ち、積極的な情報公開で意思疎通の充実を図り、社会に安心と信頼を与える工場にします。

2017年4月1日  
株式会社ADEKA 三重工場長 高橋 伸

#### (2) 環境目標

2016年度は、次の目標を掲げ活動してきました。

目 標	結 果	評 価*2
1. 公害・苦情の発生	0件	○
2. 省エネルギーの推進*1	原単位比で対前年 1%改善	○
3. CO <sub>2</sub> 排出量の削減*1	原単位比で対前年 1%改善	○
4. 産業廃棄物削減	添加剤工程対前期 2%改善(上期)	○
5. グリーン調達の推進	80%達成	○
6. ゼロエミッションの推進	最終埋め立て比率を0.1%未満	×

\*1 中間体含む全生産量において \*2 評価 ○:目標達成 ×:目標未達

#### (3) 各種モニタリング

大気汚染・水質汚濁による環境汚染を防止すべく、三重工場では各種モニタリング機器を配備し監視を行っています。



ガス分析装置



pH計



TOC計



フェノール計

## 4. 環境マネジメントシステムの状況

### (1) 環境管理推進組織

三重工場では、ISO 14001 の認証を取得し、環境管理に取り組んでいます。このシステムでは常駐協力会社を含む全ての部門及び階層の役割、責任、権限について明確に規定しており、この規定に基づき工場一丸となった環境保全活動を行っています。

### (2) 資格取得者一覧

三重工場では、働く全ての人々に対して環境マネジメントシステムの周知と自覚の徹底を図っています。全員のレベル向上と環境の継続的改善を進めるため、全ての部署で計画に基づき教育訓練を実施しています。また、公的資格の取得にも努めています。主たる資格の取得者一覧を次に示しました。

表-1 主たる資格の取得者一覧表

2017年5月末現在

該当法規制	資格名称	必要者数	取得者数
大気汚染防止法	公害防止管理者 大気1種、2種	2名	8名
水質汚濁防止法	公害防止管理者 水質1種、2種	2名	10名
廃棄物処理法	産業廃棄物焼却施設技術管理士	1名	3名
"	産業廃棄物中間処理施設技術管理士	1名	2名
"	特別管理産業廃棄物管理責任者講習修了者	1名	5名
労働安全衛生法	有機溶剤作業主任者技能講習修了者	27名	138名
"	特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者技能講習修了者	27名	122名
"	酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習修了者	29名	129名
"	第一種圧力容器取扱作業主任者技能講習修了者	13名	79名
"	乾燥設備作業主任者技能講習修了者	9名	52名
"	フォークリフト免許取得者	86名	162名
"	クレーン運転業務特別教育修了者	21名	110名
"	1級ボイラー技士	4名	13名
"	2級ボイラー技士	4名	18名
"	ボイラー整備士	0名	6名
"	第1種 衛生管理者	1名	1名
消防法	危険物取扱者甲種	0名	33名
"	危険物取扱者乙種4類	28名	118名
"	危険物取扱者乙種4類以外	7名	69名
省エネ法	エネルギー管理士	1名	3名
高圧ガス保安法	高圧ガス製造保安責任者（冷凍機械）	1名	1名
"	高圧ガス製造保安責任者（甲種化学、乙種化学、丙種化学）	4名	14名
計量法	計量証明事業試験	1名	4名
電気事業法	第2種 電気主任技術者	1名	1名
"	第3種 電気主任技術者	0名	1名
"	高圧・特別高圧電気取扱業務特別教育	1名	1名

### (3) 環境会計

2016年度の総設備投資は、2015年度に対し3,050百万円（381.2%）増加しました。これは新規工場建設によるものです。環境関係の設備投資額は2015年度に比べ2.2%増加しました。維持管理費用は、前年度に比べて電気料金単価が下がったため、4.0%の減少となりました。一方、環境保全対策に伴う経済効果は、59.1%増加しました。

表-2 環境会計

単位 千円

	2015年度	2016年度	増減(%)
総設備投資額	800,168	3,850,430	+381.2
環境設備投資額	154,965	158,335	+2.2
維持管理費用	189,022	181,382	-4.0
環境保全対策に伴う経済効果	83,102	132,223	+59.1

(4) グリーン購入

三重工場で使用する事務用品については、その内容（品目）を精査し、積極的にエコ商品を採用することにより、グリーン購入比率を高める取り組みを行っています。2016年度のグリーン購入比率については2015年度に比べて5ポイント上昇し、引き続き目標の80%を過達しています。

表-3 グリーン購入比率

	2015年度	2016年度
① 事務用品購入点数	1,095	1,122
② エコ商品購入数	1,013	1,091
③ 購入比率 (%)	92.5	97.2

5. 環境管理活動（環境保全への取り組みと改善状況）

(1) 環境パフォーマンス

表-4 インプットとアウトプットのまとめ

INPUT	項目	単位	2016年度実績	対前年比 (%)
【原材料】 (主原料)	原料使用量	t	20,763	+4.5
【エネルギー】	電力(原油換算量)	kℓ	3,899	+1.1
	蒸気(原油換算量)	kℓ	3,822	-0.5
	エネルギー原単位	kℓ/t	0.521	-5.2
【水】	地下水汲み上げ量	千t	2,274	+10.9
OUTPUT	項目	単位	2016年度実績	対前年比 (%)
【大気】	CO <sub>2</sub> 排出量原単位	t/t	1.314	-6.3
	NO <sub>x</sub> 排出量	t	9.9	-33.5
【水域】	排水量	千t	1,900	-2.7
	COD発生量	t	2.3	-14.8
	BOD発生量	t	0.8	-42.9
【製品】	生産量	t	14,937	+6.7
【産業廃棄物】	産業廃棄物発生総量	t	16,277	-1.2
	外部委託量	t	4,114	-4.3
	最終埋め立て量	t	21.9	+47.0
	ゼロエミッション比率	%	0.13	+46.2

(2) 環境負荷のインプットの低減

1) エネルギー使用量

三重工場で使用するエネルギーは、都市ガスと、動力・照明に使用する電力とに分けられます。三重工場では、設備保全の向上、省エネ機器の導入、生産効率を高める工程改善などを進め、エネルギー効率を高める努力を進めています。2016年度については、各種省エネへの取り組み効果もあり、製品1t当りのエネルギー使用量（原単位）は0.521kℓ/tとなり、2015年度比で5.2%削減しました。一方、中間体を含む全生産量に対するエネルギー原単位は0.320kℓ/tとなり、2015年度の0.328kℓ/tに対し2.3%の削減となりました。

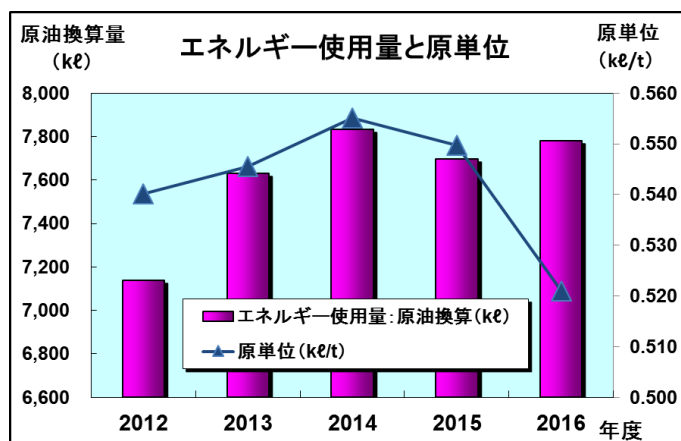


図-1 エネルギー使用量と原単位

## 2) 地下水汲み上げ量

三重工場では、飲料水を含め、構内で使用する水は全て地下水の汲み上げにより賅っています。工場構内に掘られた井戸から汲み上げられた地下水は、各工程で使用された後、工場から排出されています。その一部は、地下水を有効に利用するため、冷却塔で冷却し、再利用を図っています。2016年度の地下水汲み上げ量は、生産品種構成の変化（特に水を多く使用する中間体の生産増加）に伴い、2015年度比で10.9%増加しました。

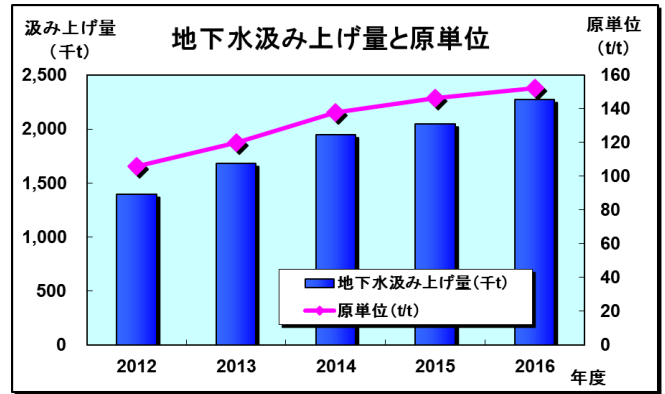


図-2 地下水汲み上げ量と原単位

## 3) 主たる原材料使用量

三重工場では、複雑な中間体生産工程を経る高機能製品の生産量が増加しています。2016年度の主たる原材料の使用量は20,763tと2015年度比で4.5%増加しました。三重工場では資源の有効活用と製造コスト削減の両観点から、原材料のロス分を無くす取り組みを行っています。

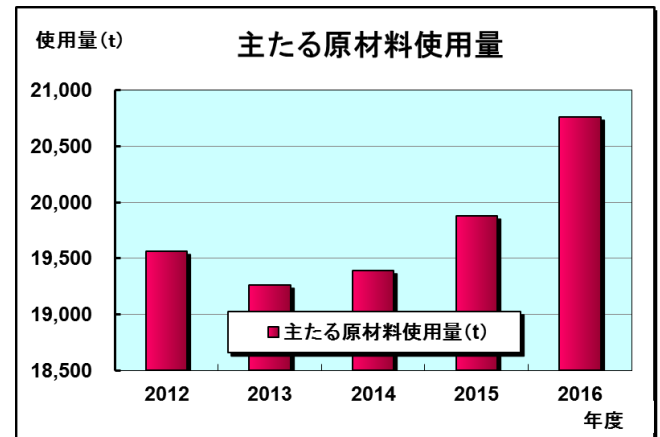


図-3 主たる原材料の使用量

## (3) 環境負荷のアウトプットの低減

### 1) 大気への排出量

#### ① CO<sub>2</sub> 排出量

三重工場のCO<sub>2</sub>排出量は購入電力を含んだエネルギーの使用量に関係しており、電力と蒸気に注力した省エネ活動を実施しています。2016年度は2015年度に比べ、CO<sub>2</sub>の排出量原単位で6.3%の削減となり、「1%以上削減」の目標を達成しました。排出量では0.07%の削減となりました。

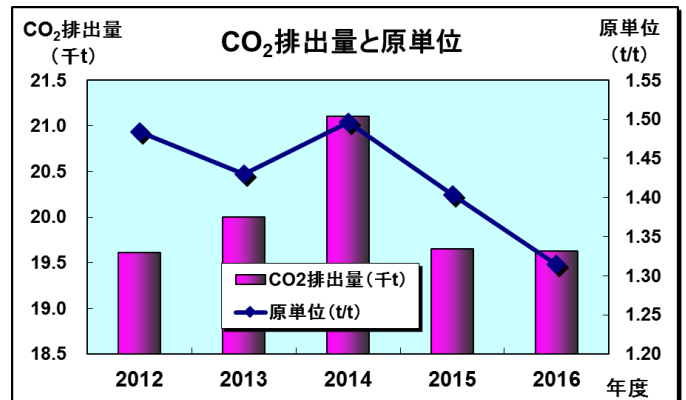


図-4 CO<sub>2</sub>発生量と原単位

#### ② NO<sub>x</sub> 排出量

三重工場では、プロセスの熱源として蒸気が必要とするため、ボイラーを設置しています。2004年度以降は、ボイラーの燃料転換（重油 ⇒ LNG）により、SO<sub>x</sub>の排出はなくなり、NO<sub>x</sub>の排出量総量も減少しています。全ての対象設備・機器の排出濃度の実測値は規制値の150ppmを十分に下回っています。

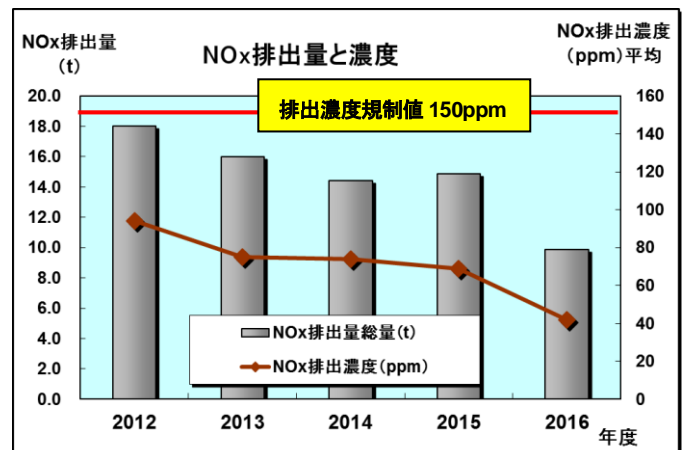


図-5 NO<sub>x</sub>排出量と濃度



## 2) 有害化学物質の排出・移動

三重工場では原材料として、多くの化学物質を使用していますが、製品の多様化により取り扱う化学物質の種類も増加しています。PRTR法の対象となる第一種指定化学物質の内、2016年度の年間取扱量が1tを越える品目の数は、32物質となり前年より2品目減少しました。取扱量は3,774t(2015年度比2.6%増加)、排出量は0.435t(2015年度比5.0%減少)、移動量は38t(2015年度比3.6%増加)となり、排出量は減少しましたが、移動量は増加しました。

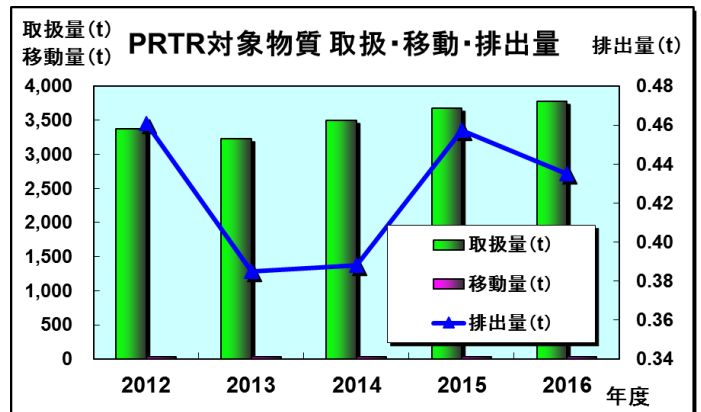


図-6 PRTR 対象物質 取扱・移動・排出量

## 3) 水域への排出量と推移

三重工場の製造工程からは1日に約300tの廃水が発生します。廃水は活性汚泥処理を行った後、雨水・冷却水を除いて全量を公共下水に流しています。工場廃水については工程改善や設備改善を進め、環境負荷の低減に努めています。

## 4) 産業廃棄物発生量

生産工程からは各種の産業廃棄物が発生します。2016年度は2015年度に比べ、産業廃棄物発生量は1.2%減少し、産業廃棄物処理業者への委託(処理)量についても4.3%減少しました。三重工場の主力である、添加剤工程全体における産業廃棄物原単位は0.423t/tで、2015年度0.430t/tに対して1.7%の削減となりました。

工程改善による産業廃棄物発生量の削減を図るとともに、産業廃棄物の内、利用できるものは再利用、古紙や使用済みドラムなどの有価売却など、資源の有効利用に努めています。

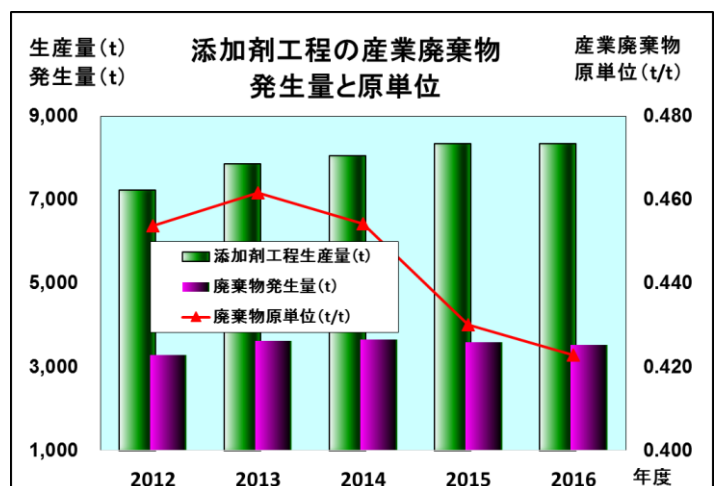


図-7 添加剤工程の産業廃棄物発生量と原単位

## 5) ゼロエミッション比率

最終埋立て量の産業廃棄物発生量に対する比率(ゼロエミッション比率)は、発生量自体は減少したものの、有効利用法がなく、直接埋め立てせざるを得ない産業廃棄物(廃油・廃酸・廃アルカリ等の焼却残渣)の量が増加したため、0.13%となりました。

当社は最終埋立て量が産業廃棄物発生量の0.1%未満になることを「完全ゼロエミッション」と定義していますが、2016年度は目標を達成することができませんでした。

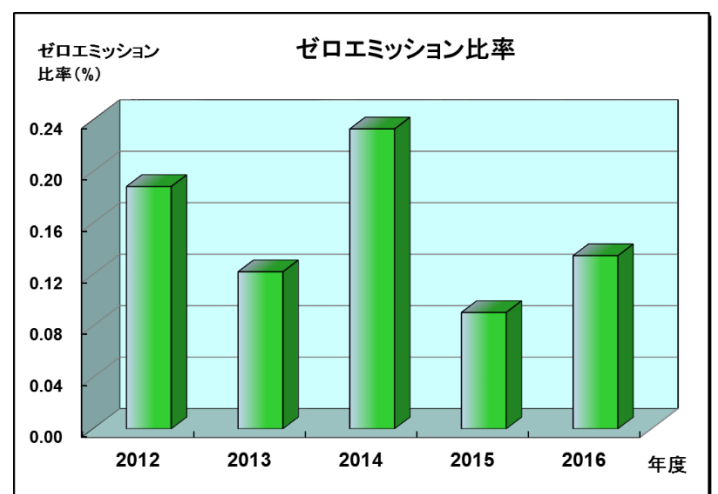


図-8 ゼロエミッション比率

## 6) 産業廃棄物の有効利用

三重工場では、産業廃棄物中間処理施設(廃油焼却炉)の廃熱で蒸気を発生させています。表-5は各工程で発生した産業廃棄物を焼却した熱を利用して発生した蒸気量を示します。2016年度の廃熱蒸気利用率は廃熱ボイラーの安定運転の目安である20.0%以上を維持することができました。

表-5 産廃炉の蒸気発生量と熱回収率

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
廃熱蒸気発生量 (t)	15,930	11,905	13,317	12,932	13,275
蒸気総使用量 (t)	62,429	63,584	66,124	64,671	65,248
廃熱蒸気利用率 (%)	25.5	18.7	20.1	20.0	20.3

## 6. 安全衛生活動

### (1) 労働安全衛生方針

<b>三 重 工 場 労 働 安 全 衛 生 方 針</b>	
<b>&lt;理念&gt;</b>	
株式会社ADEKA 三重工場は、社会の一員として労働安全衛生が工場活動の基盤であることを認識し、安全で快適な職場作りを推進すると共に、社会に安心と信頼を与える工場作りを目指します。	
<b>&lt;方針&gt;</b>	
○ 法規制の遵守	労働安全衛生に関する法令・協定および当工場が同意した要求事項ならびに社内基準を遵守します。
○ 安全・健康の確保	取り扱い物質および設備の性質を把握し、取扱い方法・設備の適正な管理を実施し、傷害及び疾病を予防します。適正な目標を定め、作業環境並びに労働安全衛生パフォーマンスの継続的改善に取り組みます。
○ 労働安全衛生意識の高揚	教育・啓蒙活動を通じて、従業員一人一人が労働安全衛生意識を向上させ、自主管理の徹底に取り組みます。労働安全衛生目標を設定し、目標を実行するための方向性を示します。
○ 対外連携の促進	地域社会の一員としての自覚を持ち、積極的な情報公開で意思疎通の充実を図り、社会に安心と信頼を与える工場作りに努めます。
2017年4月1日	
株式会社ADEKA 三重工場長 高橋 伸	

### (2) 労働安全衛生目標

2016年度は、次の目標を掲げ活動してきました。

目 標	結 果	評 価*
1. 労働災害・事故	1. 労働災害・事故	
① 休業災害0件の必達	① 休業災害2件	×
② 不休災害・微傷災害の撲滅	② 不休災害2件・微傷災害1件	×
③ 通勤途上災害などの交通事故の撲滅	③ 通勤途上災害0件	○
④ 協力会社及び工事業者災害ゼロ	④ 協力会社災害4件（上記の内数） 工事業者災害0件	×
2. 労働衛生・健康管理の強化	2. 労働衛生・健康管理の強化	
① 各種健康診断受診率100%	① 受診率100%	○
② 有所見者の完全フォロー	② 有所見者 完全フォロー実施 上期38.0%・下期44.4%	○

\*評価 ○：目標達成 ×：目標未達

(3) 安全衛生活動の取り組み

1) 2016年度の安全成績

2016年度は災害ゼロの目標に対し、休業災害が2件（従業員 首・手薬傷：休業8日、協力会社 手首・肘の火傷：休業20日）、不休災害が2件、微傷災害が1件の計5件が発生しました。

災害の発生要因を「人」「作業」「管理」「設備」に分けて、今まで以上に深く追求し、それに相当する対策を立案・実行し、災害ゼロを目指します。

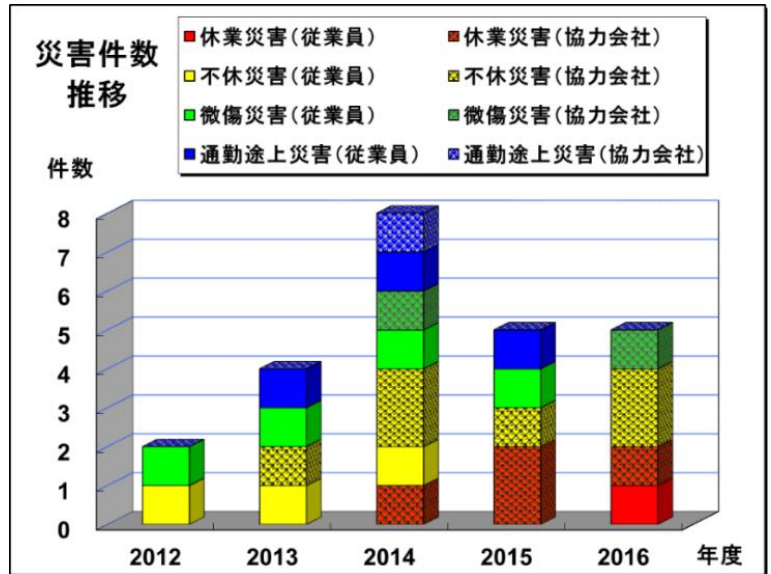


図-9 災害件数の推移

2) 安全活動

2-1) RC委員会活動

①月別安全キャンペーン

各課の持回りでテーマを選定し、その時期に合わせたテーマを取り上げました。注意力を高め、災害の発生防止に努める活動を展開したことで、安全意識の向上に繋げることができました。

②課間安全点検

年間6回（奇数月）の課間点検を実施しました。危険箇所・危険作業の洗い出しと職制によるフォローアップ点検（偶数月）の実施で、危険の芽を摘んでいます。

③他事業所の災害、Bランクヒヤリの横展開

他事業所で発生した災害について、同じ災害の発生する危険性はないかどうかについて、類似作業の調査を実施しました。その結果、類似作業で災害の発生する危険性は著しく減少しました。

④設備・保護具・ルール等の変更検討

- ・回転機器カバーの見直しについて検討しています。
- ・フォークリフト構内ルールの見直しを実施しました。
- ・甲カバー付き安全靴を検討しています。
- ・ゴーグル眼鏡の検討

現場で試着し最適タイプを検討しています。

2-2) 教育部会活動

①過去の（三重工場）災害事例教育

同じ災害を発生させないことを目的として、その月に起こった過去の災害事例を配布し、各課で教育することにより、類似災害の発生する危険性は減少しました。

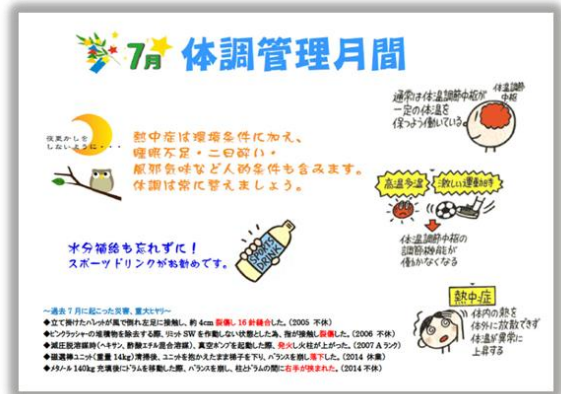


図-10 月別安全キャンペーン（2016年7月）



図-11 過去の災害事例教育

## ② 基礎化学講座

若年者層の化学・プロセスの知識不足が、事故・災害の原因となる場合が多いことから、これらの知識について、基礎から分りやすく、集合で教育を行いました。

## ③ 基礎教育・訓練

放水訓練を実施しました。工具の取扱い等の集合教育を行いました。

### 2-3) 安全活動の2016年度からの取り組み強化事項

#### ① 基本の遵守

「構内横断歩行時の指差呼称」「階段昇降時の手摺りの使用」を徹底し、お互いが注意し合える環境を整えていきます。

#### ② リレー点検の実施

「決めたことを守れる」風土を作るための管理職によるリレー点検（2ヵ月毎）を実施しています。

#### ③ 基礎化学教育

基礎（化学）教育の充実を図るべく、従来の回覧教育から集合（対面）教育重視へ切り替えます。

### 2-4) 交通安全活動

出勤時の交通安全指導を月一回実施しました。



出勤時の交通安全運動

## (4) 保安活動

### 【緊急事態への対応】

三重工場では、緊急時の対処法について基準・標準などで手順を規定しております。火災やガス洩れなどの緊急事態に対しては、初期段階で検知し警報を発するシステムを備えています。さらに、発生部署での初期緊急対処の体制と、工場全体での自衛消防隊が出動する体制を敷いています。

初期緊急対処と自衛消防隊の要員は、消防操法・救急救命など、訓練され経験のある従業員で構成されています。2016年度は、9月1日に地震発生に伴う火災発生を想定した総合防災訓練（緊急対処訓練、避難訓練、初期消火訓練）を、桑名市消防本部・東員消防署と合同で実施しました。



2016年9月1日 総合防災訓練

## 7. 社会貢献活動

### (1) 地域とのコミュニケーション

#### 1) 施設の開放

三重工場は、地域との関わりを大切にし、野球場及びテニスコートを地域に開放しております。野球場は、地元のスポーツ少年団のチームの育成などに活用していただいています。



野球場



テニスコート

#### 2) 東員町商工祭

地域産業の発展の一助となるべく、2016年10月16日に、東員町の中部公園で開催された商工祭に出店しました。地域の商工会活動などにも積極的に参加しています。



2016年10月16日 東員町商工祭

#### 3) 東員町小学生・中学生勤労体験学習

三重工場は、未来を担う「子供たち・若者たち」の勤労観・職業観の育成に貢献しています。

2016年度は地元の小中学校各2校の要請により、2016年5月、11月、2017年2月に勤労体験学習を実施しました。



2016年5月



2016年11月



2016年11月



2017年2月

#### 4) 地域ボランティア

三重工場は、毎週月曜日の朝に地元団地内の交差点二箇所、小中学校の児童・生徒に対して交通指導を実施しています。



城山交差点 交通指導

#### (2) 清掃活動

工場周辺の一斉清掃を2016年6月6日、2016年12月6日に実施しました。



2016年6月6日

2016年12月6日

この環境・安全レポートに関する質問、ご意見は下記の窓口へお願いします。

作成 株式会社 ADEKA 三重工場 安全・環境管理委員会事務局  
確認 株式会社 ADEKA 三重工場 安全・環境管理責任者 高橋真木雄  
窓口 株式会社 ADEKA 三重工場 業務部 業務課長 伊藤博也  
住所 〒511-0251 三重県員弁郡東員町山田 3707 番地の1  
TEL 0594-76-2330(代) FAX 0594-76-3011

株式会社 **ADEKA** 三重工場 業務部 業務課

## ご意見をお聞かせください

私たちは地球環境の保全と労働安全衛生に積極的に取り組んでおります。

今回、環境・安全レポート2017を発行いたしました。未だ不十分な面が多々あるかと思っております。皆様より頂いたご意見、感想を参考とさせていただき、より良い活動を進めたいと考えています。皆様の忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

株式会社  三重工場  
安全・環境管理委員会事務局  
FAX 0594-76-3011

1. この環境・安全レポートの記載項目はいかがですか。
  - a. 物足りない
  - b. 普通
  - c. 充実している
  - d. その他( )
2. この環境・安全レポートの記載内容はいかがですか。
  - a. 理解できない
  - b. 普通
  - c. よく理解できた
  - d. その他( )
3. ご意見、ご感想をお願いします。

※ お名前、ご住所などは個人情報となりますので、記入は任意です。ご記入いただいた個人情報は本アンケートの調査・分析や今後のCSR活動のご参考にさせていただき目的に限り利用させていただきます。また、個人情報は適切に管理し、第三者への開示は行いません。

ご勤務先 \_\_\_\_\_ お名前 \_\_\_\_\_

連絡先ご住所 \_\_\_\_\_

電話番号 \_\_\_\_\_ FAX 番号 \_\_\_\_\_